

チュラロンコン大学が第12回成果発表会を開催



2月27日、タイのチュラロンコン大学主催で当財団の助成を受けて進められた研究の成果発表会が開催されました。旭硝子財団は1982年から22年間、同大学に対して研究助成を続けており、同大学では1993年から成果発表会を毎年開催しています。開会式では、タチャイ・スミッツ学長の挨拶、瀬谷理事長の祝辞に続き、ウサニー・ヨディンユアー副学長が開会を宣言しました。

続いて、王立科学技術研究所 スーポット・ハノンブー助教授による「医薬品のスクリーニングおよびドラッグデザインにおける計算機化学とその応用」の基調講演が行われました。

引き続き、次の7件の成果発表が行われました。

(1) 医学部 ワンラー・クルビヒット助手「心筋症および緩行性心筋症のタイ人患者におけるエンテロウイルス属の役割：分子ウイルス学および分子病理学による特性解析」(2) 医学部 ナッティヤ・ピントノタイ助手「タイにおける上喉頭癌に関連するEBウイルス抗原に含まれる細胞傷害性リンパ球の抗原決定基における抗原部位のマッピング」(3) 医学部 ティーラ・ワチャラプレチャノン助教授「外科移植手術のための造血先駆細胞の資源としての、へその緒血液利用の実現可能性調査」(4) 歯学部 トウサニー・ヨングチャイラクル助教授「歯周組織の結実細胞の分化における歯科マトリックス材料の効果に関する試

験管内試験」(5) 附属康科学研究所 ウップマ・リングスワンウオン研究員「タイ人の肝臓に発生する胆管癌におけるマイクロサテライトDNA表現型およびミスマッチ修復遺伝子蛋白」(6) 工学部環境工学科 シャバリット・ラタナムスクル助手「染め物工場廃液の脱色のためにバイオフィルムを用いる連続式回分反応器による嫌氣的酸化法の開発」(7) 理学部化学科 スパソーン・ワニチャエチャルンルン助教授「紫外線フィルターとしての各種シナメート類の合成と紫外線吸収特性および光安定性」

バンコク近郊の大学・企業の研究者およびタイ駐在の日本人も含む約100名の出席者が熱心に聴講し、熱のこもった質疑応答がありました。